



## 聞き手

溝渕利明  
編集委員



神戸国際協力交流センター理事長(前 神戸市長)



# 笹山幸俊

SASAYAMA Kazutoshi

□ 神戸国際協力交流センター(神戸国際会館 20F)

## 神戸空港が誕生した理由

——神戸空港自体、来年2月に開港されるのですが、事業化されたのはいつ頃ですか。

笹山——1999(平成11)年に実際に着工しています。それまでに手続きは10年ぐらいかかっています。戦災後の1946(昭和21)年3月、いわゆる「戦災復興基本要綱」というのができて、向浜、東灘、芦屋、堺沖に空港をつくる計画がありました。伊丹は狭いでしょう。だからそのために検討しました。結局60年かかってしまいました。私はちょうどこの1946年の3月にこの戦災復興事業の仕事に入ったのです。3月の審議会

の最後のほうで少し顔を出したことは覚えています。空港計画は向沖といって、芦屋との境の沖に計画されました。ところが、昭和40年代の公害問題以降、環境問題がぐっと盛り上がってきた時期と重なり、議会のほうが、いま空港をつくるよりも下水道事業などの環境面での仕事を優先すべきだということとなり、計画は頓挫してしまったのです。

——市長のときにこの空港関連で何か苦勞されたことはありますか。

笹山——空港建設についての経緯がずっとあるでしょう。私が直接的に経過は知っていたのですが、担当しようとした段階は都市計画の計画部長になったときぐらいからです。そ

のときに都市計画屋としてどう思うかという話があったのです。「いや、都市計画でしたら、いつでも通らせないと困る」と言って叱られたことがありますけどね。実際に空港建設にはお金もかかりますが、当時としてはほぼできる計算になっていたのです。神戸市全体の会計のなかでだったらやっていたのではないかという話があったわけです。そこで、国に対してできると上申したのです。これだけ資産があるからということだったのです。しかし1997(平成7)年の阪神・淡路大震災で不動産の関係がずっと落ち込んでいって、資金調達も大変になったのです。

——ところで、神戸空港が開港する

意味というのはどんなところにあるのでしょうか。

笹山——よく言われるのですが、やはり3空港を関西圏にどのようにうまく活用していったらよいかということだと思っております。だから、こっちへ来い、あっちへ来いなんて言わなくても、必要があれば、うまくネットワークしているのですから、うまく役割分担すればいいのです。それは1つの管理体でやればいいわけです。また、本当に来たいと思っているのは国内ではなく、日本の周辺国なのです。つまり韓国、中国、台湾といった国々の人たちです。神戸市では、国連の人口基金をいただいて、いまパキスタンから東のアジアの9ヶ国の人びとを招いて、それぞれの国の中核都市の行政官の研修を行っているのです。それは2週間ぐらいの研修ですが、そこでは「なぜ神戸空港に直接降りられないのか」という話がよく出てきます。そういう話を聞いても、「まあまあ」と言って誤魔化していますが。

——利用客がどんどん増えてくれば、空港の拡張の話も出てきますでしょうね。

笹山——国レベルの話になってきますから当然出てきます。

——こういう聞き方してよいかどうか、神戸空港に笹山さん自体が託す夢というのは何かありますか。

笹山——やっぱり関西圏ですね。私はいまこの仕事以外にNPOもやっているのです。NPOの「都市災害に備える技術者の会」というのができていまして、これは総務省の認可で全国ベースになっているわけです。

特にいまやっているのは、近畿の2府4県で、いざというときにそれぞれの連絡網を使い、公共団体のネットワークをつくらうとしています。そのとき出てくる話は、近畿圏という言葉です。近畿圏がそこで元気を出すには、いかにこの空港3つをフルに活用できるかということです。最近、東京でも一生懸命やっておられますけども、震災のときに空港がどのような役割ができるかということです。以前、関西空港ができるとき、伊丹空港がなくなると言われたことがあります。実はあの跡地の利用について、絵ができていたのです。しかし、それは捨ててしまいました。そういうことではなくて、たとえば、関西空港が使えなくなったときに、別のどこかの空港を避難地として考えとかなないといけないということです。だから神戸空港でもいいし、伊丹空港でもいいのです。要するに関西空港がやられたときにどうするかということです。南海地震が来ると最初にやられてしまいますから。それから、神戸空港が次にやられると思います。伊丹空港は最後に残るだろうと思います。一方、雨台風が来たら、伊丹空港は浸水の危険性があります。あそこは地盤が低く、武庫川でも氾濫したら、一度に流されてしまう可能性があるのです。いま整理していますが、近頃はどんな雨が降るかわかりませんのでね。たとえば、伊丹地域はもとも

と湿地帯ですから、上から小さな河川もたくさん入ってきています。

——神戸空港が関西の活力を上げる起爆剤みたいになれば一番いいですね。

笹山——そうですね。それがうまく使えるように、お互いに協力しなければいけないと思います。足を引っ張り合っているのは駄目です。大阪はじっとしていても、全部集るところと思っています。だから「ごちゃごちゃ言わんといて」って、よく言ったものです。大阪市のほうはどっちの空港に行ってもいいわけです。

——これは私の勝手な意見かもしれませんが、もし最初にここに関西空港ができていれば、かなり関西経済圏は大きく変わっていたかもしれないですね。

笹山——変わっているだろうと思います。よそへ行く必要がないわけですから。いまでもよそへ行く企業がありますが、一方で戻ってきてくれているところもあります。それは今まであまりやっていたいなかった医療関係です。この医療関連の企業はだいぶ戻ってきています。

——今日はいろいろ貴重なお話をしていただきありがとうございます。

